

### 1. 教育の責任

グローバル化が進む地域社会において、人々の生活や価値観の多様性を理解し、対象者のニーズに応じた健康支援と看護を実践できる看護職を育成することである。

### 2. 教育の理念

- ・多様な文化的背景や価値観をもつ個人・集団・地域の特性を理解し、健康課題を俯瞰的に捉えることを重視する。
- ・国際性と基本的人権意識を備え、高潔な倫理観と使命感を持ち、包摂的な社会の実現を希求する高い志を育むことを目指す。
- ・政治・経済・社会構造にも視野を広げ、多様なニーズに応える高度な専門性を備えた看護実践力を涵養する教育を提供する。

### 3. 教育の方法

- ・講義では、教科書の内容にとどまらず、地域におけるさまざまな課題を提示し、看護職者としてどのような知識や能力が必要なのかを学生自身が気づき、考えられるような講義内容を心掛けている。また、学生同士のロールプレイによる演習内容を取り入れ、それぞれの立場（保健師・対象者・家族）に応じた対応を経験することによって、「地域住民（および家族）の生活を支える」といった視点での保健師としてのアセスメントやケア方法について考えることができるような工夫を行っている。
- ・地域住民が定住外国人であることも想定し、健康診断や乳幼児健診のロールプレイの場面においては、英語による問診表の活用を行っている。多文化共生社会において、今後看護職者が地域においてどのような役割を果たす必要があるかについて学生自身が考えるきっかけになるよう工夫している。
- ・講義と演習（グループワーク）を併用することにより、知識と実践を結びつけることができるような教育方法を心掛けている。演習は4名以下の小グループで実践することで、学生一人一人が実践のための十分な時間を確保できるようにし、また、学生同士や学生と教員間において、お互いに意見交換がしやすくなる環境を提供している。さらに、演習の振り返りをレポート課題として課すことにより、学生が自身の実践の振り返りを行うことによって、自身の課題の気づきによりさらなる学びを深めることができるように工夫している。

### 4. 教育の成果

- ・ロールプレイを通じて、学生は自身の実践を多様な視点から振り返り、異なる文化的背景や価値観を理解する力を養った。
- ・提出物は良好に提出され、課題レポートでは国際的な視野を踏まえた新たな気づきや学びが具体的に記載されていた。

### 5. 改善への努力と今後の目標

今後の目標として、実際に公衆衛生の現場で活躍する医療従事者の実践を聞く機会を設けることによって、授業で学んでいる内容が地域でどのように活用されているのかを理解し、学生が多様な価値観を踏まえた主体的な学びにつなげていく。

### 【添付資料】